

## 粗飼料基盤の早期除染・ 草地更新対策を

一括質問  
方式



菊池 由紀夫 議員  
(新興会)

ている。

いち早く、確実な除染を行って畜産農家が通常の経営状態に戻り、農家の安心、消費者も安心、そういうものを確立し、遠野の畜産振興に向け精力を傾けることを願うのが目標である。

**問** 風評被害対策を含め、粗飼料による畜産経営を再建し、畜産振興を図るため農家に呼びかけ、自力施工面積を拡大し、早期に除染を完了することを望むが対応は。

**答** 100 Bq/kgを超えた県の除染事業対象面積は、4260 haとなっており、公共牧場2216 ha転作田を含む農家所有草地2044 haを2系統に分け、公共牧場は5年、農家所有地は3年で除染することを目標とし

農家所有草地については、自力施工の申請が26%、24年度の施工面積が、推計で295 haとなっていることも事実で厳しい状況となっている。

自力施工が義務ではないが、指摘のように、早期の除染を完了させるため、可能な農家にあつては除染作業に参加をお願いしなければならぬとも考えている。事業実施主体の県農業公社と、目標達成のための方策を協議し、年内に申請農家に対し自力施工への案内

文書を改めて発送することとしている。

**問** 農家の除染作業機械の破損に対する適切な補償が必要ではないか。

**答** 自力施工農家の作業機械の破損の修理状況について調査を実施し、県農業公社及び岩手県の担当課とも十分協議し、農家に対する補償について要請する。

**問** 多様な価値観の中でも、遠野らしさを失わないですべての市民が交流し共生できる、市民協働の、共生の

まちづくりが必要ではないか。

**答** 農業・農村は、食糧生産という重要な役割を担うと同時に、自然環境、歴史文化、伝承芸能地域資源が豊富に存在し、国土保全や水源涵養等多面的な機能の発揮が求められていることから市民協働による農村文化の伝承や農村環境の保全、加えて農林業体験やグリーンツーリズム等の都市交流の取組みは重要と考え、広く遠野と連携し交流・定住の事業に取り組んでいる。議員からの質問の中で様々な提言があつたものを含め、いきいきと市民が交流する農業のあり方について、更に取り組みをすすめてゆく。



自力施工による転作水田の除染作業

※Bq=ベクレル  
放射性物質が放射線を出す能力を表す単位

いきいきと市民が  
交流する農業のあり方を